暮らしと県政・熊本

No.20　1975

もくじ

特集
・新しい地域社会をめざして
　―昭和五十年度補正予算新規事業概要―……10
・郷土の伝統工芸……24

ひろば
我が暮らし楽にならず……29
不景気の中で想う……29

くらしの窓
夏の健康づくり……30

民話……〈地蔵笠〉……森川恒臣……30

この人と30分……本田正次（植物学者）……31

明日の熊本……私の提言……西岡寅雄……34

わが町・わが村……〈玉名市〉……23
文学の里〈三角西港〉……3
盲人に声の図書を……35
緑をつくる若者たち……4
伝統文化を大切に……36
食中毒のシーズンに備えて……19
県政トピックス……38

グラビア
夏の風物（カラー）……20

随想欄……8
緒方惇
森内省子
福島次郎

表紙は
「阿蘇のあかうし」
―阿蘇郡一の宮町―
阿蘇のシンボルともいうべき赤牛の姿が素朴に表現されています。

◀仕事を終え家路につくグループ。精を出し、疲労した若い身体に清流の音が、ここち良く伝わります。

▲学習林近くの民家で談笑するグループ。仕事のこと、将来のこと、結婚のことなどなど話題は尽きません。

▲グループは活動の中に地域との連帯を図ることをとり入れています。
（写真は小学校に寄贈した桜の手入れ）

五木村林研クラブ

人吉市の中心地より車で約一時間、五木村頭地が五木村林研クラブ（西村久徳さんほか、二十二名）の所在地です。

五木村は村域面積の九五％、二万四千ヘクタールが山林で占められており、この広大な林地の活用が村振興計画の柱にもなっております。

五木村林研クラブは四十二年、林地の有効利用による生産性の向上と所得の増大を目標に発足しました。平均年令三十二歳、平均七十六ヘクタールの山林を有する後継者たちの集まりです。

クラブがまず取り組んだのは杉の品種別成長比較林の設定です。現在十一種の品種が植えられ、成長状態の比較が記録されています。

四十七年には、学習林が設定され、杉のほかシイタケの原木、クヌギ、ナラの研究が始められています。また、良質材を生みだすための種々の技術コンクールや村外民泊技術研修も活動の中にとり入れています。

一方では、村内の小学校を中心にサクラ、ヒマヤラシーダ二百数十本の記念植樹をするなど活動の中で地域との連帯を深めており、今や林研クラブは単なる林業後継者のグループにとどまらず、ふるさとづくりの中核としての期待を担っています。

当クラブの一連の活動に対し、全国で四千四百もあるグループの中から、四十九年度の林野庁長官賞が贈られ、過ぐる三月全国林研グループ連絡協議会の席上、表彰をうけました。

なお、県下の林研クラブ数は九十、会員数にして千三百七十四人を数えています。